

クラスアワーの取り組み

専攻科福祉専攻 木俣光江

1. クラスアワーを取り組むに至った経緯

2003年、筆者が本学に就任時、当時の学科長須田教授が「クラスアワーを以下の位置付けや目的を持って取り組んでほしい」と方針をのべられた。時間割り上の位置付けとして前期・後期に1週1コマの「クラスアワー」を設定し、その時間はクラス担任と学生との自主的な運営に委ねられる。その目的は、①協力して取り組むことにより人間性を養う、②クラスの和や絆をつくり、実習において支えあえる人間関係を構築する、③学生の個性が発揮できる場とする。④クラスメートの長所を知りお互いが尊重できる人間関係を構築する、等々であった。介護福祉士を目指す学生にとって資質の向上のために、上記の目的は必要な内容であり、ともすると授業や実習に追われ、培いにくい部分を授業の一環として取り入れることにより人間味あふれる介護福祉士を育成する一端になる。これについて筆者自身もかねがね介護教育の中でそのような時間を持ちたいと考えていたため、専攻科の第1期生(2003年度)から思い切って取り組むことにした。

2. 専攻科福祉専攻として クラスアワーの必要性

筆者自身クラスアワーに取り組みたい理由はそのほかにも下記のようにある。専攻科は一年で900時間以上を履修する必要がありブランクの時間が少ない。また、筆者の過去10年の教育の中で学生が「介護は勉強が楽だと思って入学したしたが、人生の中で一番勉強した」といっているように、概論系の緊張した授業が多い。従って、「ほっ」とした時間をクラスとして持つ

ことで次の授業への跳躍台とすることができる。ことに専攻学科学生は児童教育学科幼児教育専攻において感覚で行う楽しい授業を多く含む教育を受けており、柔と剛を調和させて学んできた。ちなみに児童教育学科への入学動機を学生に尋ねると「子供が好き」「音楽が好き」「ピアノが得意」「絵画が得意」「美術が好き」「楽しそうだから」などと答える。児童教育学科の授業は自分の得意とするものをさらに向上させ、楽しみながら資格の取得ができ、就職に活かすことができる。児童教育学科のシラバスには学生の入学動機につながる教育内容がふんだんにもり込まれている。しかし、介護に関しての授業は「華やか」「楽しい」「かわいい」などの形容から随分かけ離れている教育内容である。昭和62年制定の社会福祉士および介護福祉士法第2条第2項において介護福祉士の業務について、以下のように述べられている。「この法律において「介護福祉」とは第四十二条第一項の登録を受け、介護福祉士の名称を用いて専門的知識および技術を用いて身体上または精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障があるものにつき入浴、排せつ、食事その他の介護を行い、ならびにその者およびその介護者に対して介護に関しての指導を行うこと(以下介護等という。)を業とする者をいう。」---注平成19年度の国会にて前記の文言中の一部が以下のように改正された---(入浴、排せつ、食事その他)を(心身の状況に応じた介護)という表現に変更---つまり介護技術の授業では食事、排泄、入浴、移動、清潔、睡眠、など障害者や高齢者の生活援助のための支援方法の取得に多くの時間が費やされる。介護福祉実習(施設実習と居宅実習)においても高齢者や障害者が対象となり、年長者に対しての生活援助やコミュニケーション対応などの緊張を強いられる内容となる。

1年間の学生生活のなかで入学後間もない7月には2週間の第1段階実習が実施され、9月にはヘルパー同行訪問介護実習12月には2週間の第2段階実習、1月には4週間の第3段階実習と合計8週間の長期にわたる介護福祉実習を全うするためにはクラスメートが互いに支えとなり、乗り越えてゆく必要がある。そのときのためにもクラスのだれとでも良好な人間関係を築き、お互いが支えあえる関係になる必要がある。また、先輩のいない1年課程の専攻科学生は日常的に先輩との接触もなく、介護福祉実習を行うことの不安を抱えている為、卒業生と交流しアドバイスや励ましを受ける機会も必要である。その機会をクラスアワーにて持つことは有益である。

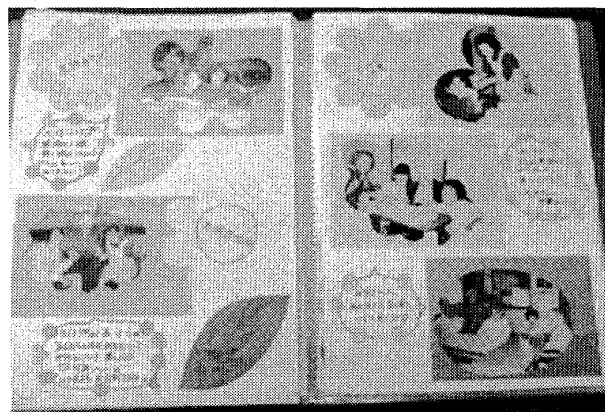
3. 介護福祉養成のための14科目の卒業時共通試験

もう1つ重要なことは、毎年2月第2水曜日に全国の介護福祉士養成施設協会が行う卒業時共通試験を受けねばならないことである。介護福祉士のための必修14科目を60%以上獲得する必要があるし、その試験結果を介護福祉士養成施設協会へ報告しなければならない。その試験の不合格者は卒業できないという法的拘束力はないが、どの学校も合格点まで得点できるよう努力している。最近では不合格者の卒業を1年延期させる学校も出始めた。2012年度から介護福祉士養成施設卒業(終了)が介護福祉士国家試験のための「受験資格」の取得になる。現在は卒業と同時に「国家資格」が取得できるが2012年からは国家試験に合格しなければ准介護福祉士の称号にしかならないので、何年か先をにらんだ教育をしている。その為に後期のクラスアワーを卒業時共通試験の過去問題の学習時間にあてる必要がある。専攻科の履修科目には幼児教育学科で履修した社会福祉概論、障害者福祉論、医学一般、精神保健、レクリエーション援助法、社会福祉援助技術の主要な6科目は免除される。しかし、児童教育学科の履修科目のシラバスをみると児童に視点を当てた内容が多い。介護概論や実習指導の授業で社会福祉論

や社会福祉援助技術の授業にて教授されるべき内容が必要なとき、「〇〇を幼教の時学びましたね。」とたずねると、きよとんとしたり、即座に「習いません」と返事が返ってくる。幼児教育学科では当然児童福祉の視点を重点的に教授しているので既履修科目も部分的には未履修に近い状態である。それを克服するには過去問題を通じてその科目を学ぶ必要がある。そのことが2003年度の学生の試験結果を見て分かった。前期に楽しみながらクラスの指導力や結束力を養っておき、後期は各々の力を発揮してもらい、介護福祉士養成のための14科目の勉強会をクラスアワーの時間に持つことにした。

4. 1年間のまとめのアルバム作成

かねてからクラスアルバムを作りたいと思っていたので1年間のまとめをクラスアルバムとして残すことを学生に提案し、年度初めのクラス役員選出時にアルバム係りも選出した。専攻科学生の多くは本学出身であり、数ヶ月前の幼児教育学科卒業時に立派なアルバムを取得している。卒業アルバムは各クラスごとの集合写真、部活写真その他学園の様子や施設などが掲載さ



2003年度クラスアルバム

れている。各年度のアルバムの内容の違いはクラス写真や部活写真など変更になっているが、多くの掲載内容は卒業時と変わらない。卒業アルバム購入の有無のアンケートを学生に取ったところ、全員が不要とこたえたので上記を提案したのである。卒業間じかな忙しいときのアルバム作りはおっくうであるが、クラスが楽しければその思い出を残したくなると思う。アルバ

ム係を中心に年間を通じて写真を撮り、各々が持っている写真も出し合って作成する。過去4回のアルバム作りを通じて感じたことは、1年間の楽しい思い出話に花咲かせながら和気あいあいと作成し、一層クラスの和や絆を強くしたように思う。

5. 実際のクラスアワー運営方法

(1) クラスアワーの目的を全員に徹底する

- ・クラスの和を図る
- ・クラスの一員としての自覚を養う
- ・企画を立案することにより計画性を身に着ける。
- ・実行することによりリーダー性を養う
- ・クラス全員の長所を知る
- ・教員にも参加を呼びかけ、交流の中から授業以外の場面での教員とのふれあいを通し人間的広がりを養う。
- ・リラックスした楽しい時間を持つ
- ・実行した計画についてクラス全体で反省し次の計画への参考にする

(2) 方法

- ・2～3人で一企画を受け持つ。
- ・1回目の授業にて日にちの割り振りをし、各々が内容を考え半期の計画を立てる。
- ・2回目の授業は筆者が準備した内容を行い、大よその時間等の持ち方を把握する。各自の計画内容を提出させテーマ、内容を簡単に発表する。クラスアワー時間が2コマ必要の場合は筆者の2コマ続きの授業と入れ替えたり、昼食をかねる企画の場合は筆者の2限目の授業と入れ替えたりと臨機応変に時間を組み替えることにより計画内容の範囲が広がるようにする。
- ・実施日1週間前までに各自計画書を完成し目的、時間配分、必要物品、必要経費、会場など明示し全員に周知させる。また、指定教室以外の教室使用や物品の使用願い、外部に出かけるときの会場交渉（ボーリング場、カラオケ店）や留意点を責任を持って行う。
- ・企画内容は通所介護（デイサービス、デイケア）にて行えるようなもの。

- ・自分たちが楽しむ内容や身につくもの。
- ・高齢者や障害者が楽しめるもの。

(3) 留意点

- ・変則的な時間割になると授業準備に間違いをきたし易いので次回の企画時間や日時を確認して注意を喚起しておく
- ・幼児教育学科出身の為、内容が幼児向けのゲームやレクリエーションになりがちのため、成人が楽しめる内容や有用と感ずる内容にするよう注意する。
- ・使用物品や材料も一般人が使うものを準備する（幼児向けの材料を使用する場合は導入で成人が納得できる説明をする）
- ・90分または180分の時間配分を考える。
- ・10分程度早く終了することは良いが、延長はできない。
- ・待ち時間ができる内容の場合はその待ち時間をどのように使うか考える。（例、塗料が乾燥するまでの待ち時間、寒天が固まるまでの待ち時間）

6. 2004年度～2006年度のクラスアワー企画の実際と反省

以上のような視点からに実施したクラスアワー企画のタイトルを羅列しそのなかから幾つかの詳細や概略を載せる。企画内容、企画に対して対象者（参加者）、目的、留意点、準備、結果（反省、感想）などについて、事前および終了時に企画担当学生が記入したものである。

7. 2004年度のクラスアワー企画

①和紙人形作成

対象者	高齢者	障害者
人数	利用者5～6名	援助者2～3名
目的	指先を使い和紙を折ることにより認知症や障害の改善や進行を防ぐ。方法数種の折り方見本、完成見本、和紙人形の本を提示する。見本の中から自分の作りたい作品を選び、それに合う和紙の絵柄を各自選ぶ。本人が選ぶ能力のない場合はアドバイス	

する。実際に介護の現場で利用者と行う場合は2～3人の利用者に1人の援助者が付いて行う。1部分ずつをゆっくり説明し、作業の進行状況が同じ程度なるよう配慮する。人形のパーツを組み合わせ台紙に貼る。作品を見せ合い、製作者が自分の作品についての感想や出来栄を述べる。お互いの作品の感想を述べ、次回参加への意欲へつなげる。

留意点 身体障害者、視覚障害者への支援は手を添えながら一緒に折る、口頭で方法を伝える、ななど障害に応じ1人に1人の対応が必要になるため、人員配置を考慮する必要がある。作品を見せ合うとき、長所を見つけほめることで参加したことへの満足感を得、次回参加への意欲を引き出すような言葉がけを行う

結果 健常者(学生)を利用者に見立てて行ったが、障害設定(利き手を抑制し麻痺にする、濃いサングラスを着用し弱視にするなど)をして行ったほうが援助すべき点が理解できる。和紙は柔らかく手触りが良いので作っていても安らぎをもたらす。和紙には柔軟性があり、間違った折

り目をつけても折りあとが気にならない。

いろがみに比べて和紙は費用がかさむ。

②ナツメロを歌おう

対象者 高齢者、壮年の障害者
目的 50歳代から90歳くらいの方がよく知っている歌を覚え、実習にて利用者とコミュニケーションやラポールのきっかけを作る。

自分がその曲を全部知っていても「よく知らないでこの歌教えてください」と利用者に教えてもらうことにより、利用者に教える喜びや有用感、連帯感をもってもらう。

一緒に歌う楽しみを持ってもらう。周りの利用者も一緒に楽しむ

準備 カラオケ店の予約をする、会場までのアクセスと方法を明示する、曲の選定と歌詞のコピーを配布する、予算の確認をする。

留意点 カラオケ店へ出向く為、時間厳守。事故防止のため公共交通機関利用。

結果 2, 3曲ナツメロを歌ったが、テンポがゆっくりで馴染みのない歌のため、みんなの不満足げな様子に見かねて途中でいつものカラオケお楽しみに変更した。授業として取り組んだので、選定した何曲かを覚えるまで繰り返し歌うべきであった。

注 実習指導の中で高齢者の生きてきた時代を知って貰う為、年代ごとに流行した曲名と主な出来事一覧表を渡しているのをそれを参考にしながらカラオケの曲を選定した。

③美顔マッサージ

対象者 高齢者 障害者 一般
目的 女性利用者は顔のマッサージと手指のマッサージを行う。男性利用者に対しては手指のマッサージを行う。年齢を重ねてもいつまでも美しくありたいと思う女性の心理やマッサージされることの心地よさによるリラッ



2006年度クラスアワー(アルバムの一頁より)

クス効果を持たず。利用者同士や職員が行い、お互いにふれることによりスキンシップを図る。

内 容 温湯やオイル、マッサージクリームにて顔、手指をマッサージする

方 法 ヘアーバンドで髪の毛が顔に来ないようにする(タオルでも可)。熱湯にタオルを浸し軽く絞る。タオルをさばきながら 45℃程度にさまし、顔全体(手のみの場合は手)を覆い、3～5分そのままの状態を保ち皮膚を温める。

顔に当てたタオルを使い額からあごに向けて顔を拭く(手の場合は指先から手掌に向けて行う)。マッサージクリームを顔全体(または手)に塗り、額からあごに向けて軽くマッサージする(手の場合は指先から手掌に向けて行う)

準 備 化粧をしていないこと(化粧を落とすこと)

各自タオル2本、ヘアーバンド、担当者はポットに熱湯3ℓ、洗面器2、3個、マッサージ用クリーム、ベビーオイル、ティッシュ、

留意点 利用者に行う場合は本人に説明をし、意思を確認する。

皮膚が弱い場合があるので、一部分を試し少し時間を置いて異状の有無を確認後行う。

結 果 美顔マッサージ企画の担当者が仕事としてその技術を持っているので、手指がスムーズに動いていたが、不慣れなものは皮膚へ与える力の強弱の加減が難しかった。

ゆったりとした時間が持て、リラックスできた。他者にゆだねやってみらう心地よさを感じた。

皮膚がしっとりとし、優しい気持ちになり、鏡を見たくなった。

※補 足 マッサージの癒し効果について介護現場で不穏状態の認知症の利用者が手指のオイルマッサージを受けらう

ちに穏やかな表情になり笑顔が出てくるケースが発表されている。

④・椅子ダンス

対象者 下半身麻痺または下肢不自由な障害者、虚弱者

目 的 車椅子利用者がダンスを楽しむ

内 容 車椅子利用者がダンスを楽しむ方法を学ぶ

方 法 車椅子ダンス普及協会から講師を派遣してもらう

準 備 車椅子(タイヤの空気圧を確認し整備しておく)ラジカセ

経 費 講師3人の交通費 2000円×3
学生食堂チケット 400円×3 合計 7200円

前日までに学生1人 800円企画担当者に渡す

当日の任務 講師来校時間に玄関へ出迎え、終了時の送り出し(食堂へ案内する)介護実習室のベットを入浴実習室へ移し広い場所を作る

車椅子を部屋の中央に準備をする

方 法 2人1組になり下半身麻痺または下肢不自由な障害者役と健常者役に別れ指導を受ける

留意点 車椅子ダンスを行うための注意事項を守る

結 果 正式な手の組み方を学ぶことができ、何度も練習すればタンゴやルンバなどのリズムに乗った社交ダンスもすることができる。講師が模範ダンスを踊る様子を見て感動した。



車イスフォークダンス (2005年度生)

⑤・お菓子作り

内容 簡単に作れる手作りおやつ

目的 施設生活の中で午後のひと時を入所者が作って楽しむ。主婦の経験者は調理をすることで元気なころを思い出して貰い生き生きとした生活を送るきっかけ作りをする

方法 3人でグループを作り、各グループが考えたお菓子を作り、レシピの交換をし、試食する

留意点 手や目に障害があっても一緒に作れる工夫をする。
1時間程度で作って試食ができるようなものにする。
道具の準備や後片付けが簡単なものにする。

結果 最初から利用者と一緒に準備することは時間が限られていて難しいのである程度まで半調理し、焼く、蒸す、盛り付けるなどで楽しむような準備が必要である。特にゼラチンを使用する場合は固まる時間を要するので事前に冷やし固める作業を行い、ホイップクリームや缶詰でデコレーションをして楽しむとよい。
缶詰の餡を使用することでドラ焼きやおだまきを作って楽しめる。

⑥はぎれを活かした小物作り

⑦先輩との交流会

目的 卒業生の参加を得て実習の心構えや卒後の職場の様子を知る。
茶話会を持ち親睦を図り和やかな雰囲気を楽しんむ

役割分担 案内状作成と出欠の集約係、受付係、司会進行係、はじめの言葉、終わりの言葉係、テイクタイム係(お茶、菓子の買出しも含む)会場の設営係、プログラム作成係、

準備 交流会への案内状の作成。
発送対象者卒業生、幼児教育学科教員。

案内状見本を手本に全員で1, 2枚ずつ手書きし1ヶ月前に発送し、出欠を取る。前日会場飾りつけ、買出し

当日のスケジュール

前半 卒業生の現状報告実習の心構え質疑応答

後半 親睦会

結果 在校生は、先輩が社会で活躍する様子が分かり就職後の心配が少なくなった。実習においての学生としての留意点がよく分かった。受け入れ先の様子もうかがい知ることができた。卒業生が恩師と交流している様子が良かった。

⑧卒業時共通試験のための過去問題勉強会

過去問題勉強会の運営方法は、科目ごとに複数の責任者を決め学習する。科目責任者は勉強会で解決できない内容について科目担当教員に解説してもらい責任を持って解決し、全員に伝える。誰もが主体性を持たないと進まないし、協力しないと進まない。これを後期に行えるのは前期でのクラスアワーを行った賜物と自負している。

⑨学園祭

ファッションショー(障害者、高齢者の為に衣服のリフォーム)
家政学の被服実習にて作成した作品を発表する。

⑩人生の先輩から学ぶ。

お年寄りの生きてきた道を話していただき、高齢者の思いや生きてきた時代背景を知ることによりそれを介護に活かす。

⑪ケース発表会

介護福祉実習にて・受け持った利用者について介護計画を立案し、実践した結果をまとめ発表する。人前で発表するマナーを学ぶ。
原稿準備、小冊子作成により協力を学ぶ。

⑫小旅行(2～,3回会員バス使用)

クラス全員に呼びかけ都合のつく者が参加した。

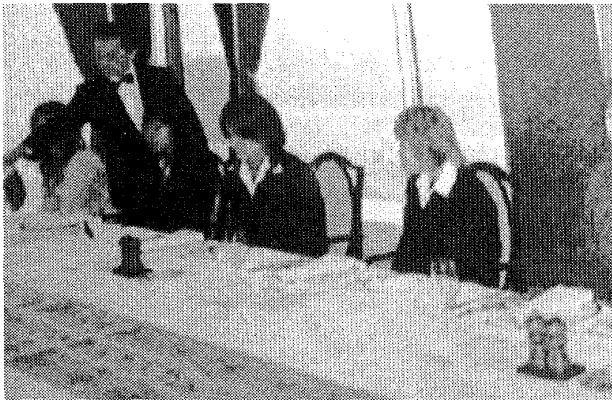
⑬アルバム作成

アルバム係は年間を通じて写真を撮る。担

当以外の学生も自分の撮った写真の中からアルバムに使えるような写真を提供し、各学生が行事ごとに2～3ページ作成する。ページごとに学生の個性や感覚が発揮され、どのページも楽しい構成がされ変化に富み、なおかつアルバム担当者の負担が少ない。

8・2005年度（以降企画名のみ羅列する）

- ・テーブルマナー（岐阜グランドホテル）



テーブルマナー（2005年度生）

- ・ナツメロを学ぶ（カラオケ店）
- ・ちぎりえ・ロープ人形作成・苔玉盆栽（卒業生が指導に参加）・ピーズマスコット・車椅子フォークダンス（体育館）・おやつ作り・お茶会（高校まで茶道を行っていた学生が企画する）・車椅子バレー、ドッジボール（体育館）・先輩との交流会
- ・学園祭 エプロンシアターエプロンをステージにみたててコントを行う
- ・人生の先輩から学ぶ・ケース発表会・小旅行（2～,3回会員バス使用）都合のつくもののみ参加・カレーパーティ・焼き芋の会・鍋パーティ・アルバム作り
- ・一泊旅行1万円の安い目玉企画のバック旅行で南紀白浜へのバス旅行をし温泉での裸の付き合いをした。
- ・2006年度企画
- ・苔玉盆栽・犬のぬいぐるみ・障害設定ボーリング（長良川ボーリング場）・おもちゃ作り・水団（すいとん）を食べてみる会・ナツメロ（カラオケ館）・昔のお菓子作り・そうめん昼食会・先輩との交流会・学園祭ハンドベル演奏

- ・人生の先輩から学ぶ・ケース発表会・レストランでランチ クラス全員に呼びかけ都合のつくもの参加・焼き芋の会・クラスアルバム作成

9・アンケートの実施

クラスアワーについて2006年度卒業生を対象にアンケートをとり、以下のような結果になった

アンケート方法は携帯電話のメールに送信し、返信してもらう。（全員のメールアドレスが登録されているのは2006年度卒業生15名のみの為2006年度卒業生に限定した。）9名から回答がえられた。2通はエラーになり受信されなかった。回答者の氏名が分かるので多少は回答に対する正確さを欠くことも考慮する必要があるが以下ようになった。

10・アンケートの内容および結果

クラスアワーを実施する中で木俣は以下の目的を持って行いましたが目的が達せられた場合は○を付して返送ください。

- ①クラスの和を図る ◎207
- ②クラスの一員としての自覚を養う △1◎103
- ③企画を立案することにより計画性を身に付ける。×1（理由リーダーに任せになる） ◎104
- ④実行することによりリーダー性を養う×1（理由リーダー任せになるので養えない） ◎102
- ⑤クラス全員の長所を知る ◎106
- ⑥教員の参加により、交流の中から授業以外の教員とのふれあいや人間性を養う。 ◎106
- ⑧リラックスした楽しい時間を持つ ◎207
- ⑨クラス全体で反省を行い次の計画への参考にする ◎204

11・アンケート結果についての考察

ブランク時間の少ない専攻科の授業を受けるなかでクラスアワー企画を持つことに対し最初は「面倒くさい」とか「何でそんなことをするの」と愚痴をいっていた。しかしお互いが自分の企画時間に責任を持たないと成り

立たないシステムのため、各々責任者としての自覚が生まれた。企画を実行する中で達成感や責任感、満足感が生まれ、プランクが少ないからこそリラックスタイムを持つ意義を感じた。クラスメンバーの中でも普段接しない者もおり友人関係が固定されている場合が多いが、全員が協力関係を持つシステムにしたため、全員が全員の気心を知り、2, 3人ずつ分かれて行う実習先でもどの学生とも協力し支えあうことができたと思う。アンケート結果から考察すると「クラスの和」と「リラックスした時間」へ○を7名が記しているのは、クラスアワーを実施し、その反省会では痛いところを突かれたり自分の短所を反省させられる関係作りをしたことにある。実習反省会の発言からみると「実習時に相談しあったり、くじけそうなとき仲間に助けってもらったり助け合って実習を行えた」との意見が多く、その効果が発揮されたのではないかと思う。

12・終わりに

アンケート返信時に以下のような感想が寄せられた。

【クラスアワーをしたことでクラスの子達の個性が知れたし、思い出作りにもなりました。授業ばかりでなくたまには息抜きがあったので気分転換にもなったし、クラスの絆も強まった気がします。反省すべき点がいろいろ出てきたけれど、それに気づいてお互いに思ったことを言い合える仲になったことが本当の仲間になれたのだと思いました。】【まる、まる、どの答えもみんなまる】【ぜーんぶそのとおりに】などメールに寄せてくれ、当初の目的であるクラスアワーの効力が発揮できたと思う。また、専攻科2期生の2004年度から実施している「先輩との交流」では卒業生が何人か出席してくれ、後輩のためにアドバイスしたり、クラスメート同士旧交を温めたり、恩師と歓談したりと心温まる時間を持っている。卒業生は「専攻科の仲間が心のよりどころになっている」といってくれ、在生も自分たちの為に来てくれる先輩の姿から後輩に対しての思いやりや対応を学んだ。先輩たちも学生時代に授業だけの結びつきではきっと交流会に

出席しようと思ってくれないように思うが、楽しんだり和んだりした嬉しい思い出が出席に結びついていると思う。

専攻科の教員として着任以来、5年間、試行錯誤しながらクラスアワーを行ってきた。企画を実施する時には担任として相談のったり準備に時間を費やしたり、研究室にクラスアワー企画用の物品を預かり、出し入れの煩雑さを年中感じていたが、企画が成功するたびに1つずつ成長する彼女たちの様子を見た。それが筆者自身にも喜びを与えてくれ、学生との絆を強くしてくれたように思う。